

常盤中だより



学校教育目標

「心豊かな中学生」「自ら学ぶ中学生」「活力あふれる中学生」



【あいさつ】



校長 橋本 崇

「校長先生、明けましておめでとうございます。よろしく
お願いします。」

新年早々、登校すると、生徒からすばらしいあいさつを
もらいました。連休のゆるんだ気分が一気に吹き飛び、やる気
と元気が出てきました。思い返すと、この頃生徒のあいさつ

がよくなってきていると感じます。教室に行った時や、特に部活動の試合の応援に行った時
は、生徒たちは元気にあいさつをします。

大手の量販店に買い物に行った時のことです。その日はゲームソフトの発売日だったよう
で、レジには多くの小学生が親と一緒に並んでいました。レジの店員さんは、相手の顔を見な
がら笑顔で、「こんにちは」「ありがとうございました」と応対していました。自然で明るく気
持ちのよいあいさつでした。一方、買う側はどうかというと、親も子も黙って品物とお金を差
し出し、何も言わず品物を受け取りその場を去っていきます。

しかし、私のすぐ近くにいた小学生は違いました。「これをください」とはっきり言い、受
け取る時には「どうもありがとう」と大きな声であいさつしたのです。店員さんは一瞬驚い
たようでしたが、少し体を屈め小学生に顔を近づけるようにして、「ありがとうございました」
とにこやかに言いました。私は、とてもいい気持ちになりました。

よく見ると、その子の母親は私がよく知っている人でした。レジを終えた彼女に私は、「お
子さん立派なあいさつができるね。すごいね。」話しかけました。

その子には、生まれた時から重い心臓病があって、赤ちゃんの時から何回も大手術をしたと
いうことを聞いていました。小さな子どもと接触することは病気の関係で避けなければなら
なかったこと、幼稚園や保育園にも行けなかったこと、母親も仕事を続けられなかったこと、
小学校でも体育の授業は見学が多く先生にお世話になっていること、これからも検査や入院、
手術が必要であることを聞いていました。

いつどういう事態に襲われるか、絶えず言い知れぬ不安と聞ってきたことでしょう。遅しく
生きていって欲しいという親の願いが「元気なあいさつ」にあらわれているような気がしてな
りません。

あいさつは人を元気にしてくれます。自分を元気にします。

今学期も誰もが元気に登校し、元気にあいさつを交わすことができることを願っています。

